

学会員（教員）研究動向 [2021.4～2022.3]

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
秋葉 武	著書 (分担執筆)	『たのしく学ぶ社会福祉—誰もが人間らしく生きる社会をつくる—』(ミネルヴァ書房)	2021.5
	論文(共著)	「NPOの組織基盤強化—NPO 砂浜美術館(高知県黒潮町)の財源の変遷から—」(『立命館産業社会論集』57巻3号)123-133頁	2022.1
	論文(単著)	「気候変動をめぐる京都の環境 NPO・NGO——認定 NPO 法人きょうとグリーンファンドの事例から—」(『立命館産業社会論集』57巻4号)153-164頁	2022.3
	研究発表等 (共同)	「NPOのマネジメント強化—NPO 砂浜美術館(高知県黒潮町)の財源の転換プロセスから—」(日本 NPO 学会第23回研究大会)	2021.6
	その他 (単独講演)	「気候危機と日本の環境 NGO」(2021日韓市民100人未来対話(主催韓国国際交流財団))	2021.11
有賀 郁敏	論文(単著)	“COVID-19, Tokio 2020 und die Krise der Öffentlichkeit in Japan: Aporien der Gesellschaft und des Sports durch den Neoliberalismus” (<i>Sport und Gesellschaft</i> Volume 18, Issue 1)65-80頁	2021.4
	論文(単著)	“Die Probleme der japanischen Regierung in Bezug auf Tokio 2020/21: Prinzipienlosigkeit, Gedankenlosigkeit und Verantwortungslosigkeit” (『立命館産業社会論集』57巻2号)83-97頁	2021.9
	論文(単著)	「東京パラリンピックと新自由主義の奇妙なシンクロ」(『立命館産業社会論集』57巻3号)1-20頁	2021.12
	論文(単著)	「国政選挙とスポーツ政策—日独比較—」(『立命館産業社会論集』57巻3号)21-41頁	2021.12
	論文(単著)	“Reflections on Modern Japanese Society and Tokyo 2020: Authoritarian Control and Social Integration” (Antorreas Niehaus and Yabu Kōtarō (Eds.), <i>Challenging Olympic Narratives, Japan, the Olympic Games end Tokyo 2020/21</i> , Egon Verlag, Baden-Baden 2021)285-301頁	2021.10
	研究発表等 (単独)	“Die Probleme der japanischen Regierung in Bezug auf Tokio 2020—Prinzipienlosigkeit, Gedankenlosigkeit und Verantwortungslosigkeit —, Kolloquium 12. Juli 2021 Thema Olympische Spiele in Tokyo Olympische Spiele in Tokyo 2020/21” (Vorträge von Prof.Toshiyuki Ichiba und Prof. Ikutoshi Aruga Universität Muenster, Deutschland)	2021.7
	その他(単著)	「東京2020をめぐる、「もう一つ」の視座—五輪はたしてトボスと調和できるのか—」(『さんしゃ Zapping』Vol.36 No.1 (通巻199号))11-17頁	2021.7
	その他(単著)	「『混迷の祭典』とメディア—新聞やテレビは東京オリンピックをどのように扱ったのか—」(『さんしゃ Zapping』Vol.36 No.2 (通巻200号))14-20頁	2021.12
	その他(単著)	「北京五輪と「外交ボイコット」」(『さんしゃ Zapping』Vol.36 No.3 (通巻201号))14-19頁	2022.3
	その他(単著)	「GNH(国民幸福量・度)からみた日本社会」(『卒業論文論集—余暇社会の歴史と現代—立命館大学産業社会学部有賀郁敏ゼミ)1-10頁	2022.3
	その他(単著)	「ロシア軍のウクライナ侵攻と「平和と民主主義」—プーチン大統領の妄執と謀略を批判する—」(『3回生ゼミ論集—余暇社会の歴史と現代—立命館大学産業社会学部有賀郁敏ゼミ)1-8頁	2022.3
飯田 豊	著書(共著)	『新版 メディア論』(水越伸・飯田豊・劉雪雁, 放送大学教育振興会)44-116頁	2022.3

飯田 豊	著書(分担執筆)	『「趣味に生きる」の文化論 ―シリアスレジャーから考える』(宮入恭平・杉山昂平 [編], ナカニシヤ出版)34-43頁	2021. 4
	著書(分担執筆)	『ポストメディア・セオリーズ ―メディア研究の新展開』(伊藤守 [編著], ミネルヴァ書房)94-116頁	2021. 4
	著書(分担執筆)	『ゆるレポ ―卒論・レポートに役立つ「現代社会」と「メディア・コンテンツ」に関する40の研究』(岡本健・松井広志・松本健太郎 [編], 人文書院)166-169頁	2021.11
	著書(分担執筆)	『技術と文化のメディア論』(梅田拓也・近藤和都・新倉貴仁 [編著], ナカニシヤ出版)205-222頁	2021.11
	論文(単著)	「壁のない教室」としての『北白川こども風土記』(京都大学人文科学研究所『人文学報』117号)167-169頁	2021. 5
	論文(単著)	「放送人、小松左京 ―一九六〇年代のメディア論的想像力」(青土社『現代思想』2021年10月臨時増刊号)115-125頁	2021. 9
	論文(単著)	「考現学のメディア論」(現代風俗研究会東京の会『現代風俗学研究』21号)3-8頁	2021. 9
	論文(単著)	「大阪万博とビデオ・アート」(科研費(基盤B)「万国博覧会に見る「日本」―芸術・メディアの視点による国際比較」中間報告書(研究代表者: 暮沢剛巳))12-20頁	2022. 3
	研究発表等(共同)	“Do Robots Dream of Digitalized Humans?: Three Preliminary Studies of Robot, Art, and Literacy” (Shin Mizukoshi, Chang Geun Oh, Yutaka Iida, Seongssoo Baeg, 2021 Connected learning Summit)	2021. 7
	研究発表等(共同)	「テレビシンポジウム「コロナ禍のテレビ ～“現在地”とそこから見つめる“アシタ”」(民間放送70周年記念全国大会)	2021.10
	研究発表等(共同)	「青少年のメディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組みに対する調査研究」(中橋雄・飯田豊, BPO 年次報告会)	2022. 3
	研究発表等(共同)	「これからのメディアと、メディア研究を考える ―文研75周年記念シンポジウム」(村松泰子・伊藤守・飯田豊・村上聖一・宇治橋祐之, NHK 文研フォーラム2022)	2022. 3
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑦ 企業ブランディングの理解が深まる図録 ―石岡瑛子展、佐藤可士和展」(宣伝会議『月刊 広報会議』2021年5月号)143頁	2021. 4
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑧ 二度目のテレビ離れ? ―かつて「若者のテレビ離れ」と名指しされた世代は60代に」(宣伝会議『月刊 広報会議』2021年6月号)143頁	2021. 5
	その他(単著)	「美術史の切断面を浮き彫りに ―芸術家たちのメディア論的想像力覚醒の過程」(松井茂『虚像培養芸術論 ―アートとテレビジョンの想像力』(フィルムアート社)書評)、『週刊読書人』)	2021. 6
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑨ 本誌創刊から振り返る、広報メディアの変遷とリスク対応」(宣伝会議『月刊 広報会議』2021年7月号)143頁	2021. 6
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑩ SDGs への厳しい見方に耳を傾ける ―流行で終わらせない緊張関係」(宣伝会議『月刊 広報会議』2021年8月号)143頁	2021. 7
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑪ 職場見学の受け入れ、意義をどう位置づけるか ―部門間の相互理解」(宣伝会議『月刊 広報会議』2021年9月号)143頁	2021. 8
	その他(単著)	「米倉倉律『八月ジャーナリズム』と戦後日本 ―戦争の記憶はどう作られてきたのか」(花伝社)書評」(共同通信配信記事)	2021. 8
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑫ 雑誌のようなウェブのリバイバル ―速報と逆行く“読み物”の根強い人気」(宣伝会議『月刊 広報会議』2021年10月号)143頁	2021. 9

飯田 豊	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑬ ネットを介したアウトプットの経験値が執筆の強みに」(宣伝会議『月刊 広報会議』2021年11月号)143頁	2021.10
	その他(単著)	「社会との関係を多角的に検討 ―ソーシャルメディア自体の輪郭が曖昧な現状において、読者の幅広い興味関心に応えられる一冊 (松井広志・岡本健編著『ソーシャルメディア・スタディーズ』(北樹出版)書評)」(『図書新聞』2021年10月23日号)	2021.10
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑭ 企業博物館、展示物にどのようなストーリーを語らせるか」(宣伝会議『月刊 広報会議』2021年12月号)143頁	2021.11
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑮ マスメディアとインターネットの間の「循環」に注視する」(宣伝会議『月刊 広報会議』2022年1月号)143頁	2021.12
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑯ オウンドメディア上でのアカデミックな議論が企業価値に」(宣伝会議『月刊 広報会議』2022年2月号)143頁	2022. 1
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑰ ネット時代にも有効なマス・コミュニケーション研究の視点」(宣伝会議『月刊 広報会議』2022年3月号)143頁	2022. 2
	その他(単著)	「広報メディア温故知新⑱ 期待が跳ね上がる「メタバース」、その概念は30年前に由来」(宣伝会議『月刊 広報会議』2022年4月号)143頁	2022. 3
	その他(単独)	「都市とメディアの過去／現在／未来」(ZOZO, Fashion Tech News)	2021.12
	その他(共同)	「都市を形づくるメディア・イベント：パブリック・ビューイングから路上飲み、カフェと公園」(速水健朗・飯田豊, ZOZO, Fashion Tech News)	2022. 1
	その他(共同)	「都市を観察しつづける定点観測、そこでの考現学」(高野公三子・飯田豊, ZOZO, Fashion Tech News)	2022. 1
	その他(共同)	「身体性メディアが切り拓く、新たな価値観と未来の社会」(南澤孝太・飯田豊, ZOZO, Fashion Tech News)	2022. 2
	その他(共同)	「仮想世界メタバース ゲームの先に広がる未来」(NIKKEI LIVE「Global Tech LIVE」)	2022. 2
	その他(共同)	「新たな社会に向けたリーガルデザイン」(水野祐・飯田豊, ZOZO, Fashion Tech News)	2022. 3
	その他(共同)		
石田賀奈子	著書(共著)	第2章「社会的養護の制度と動向」みんなで育てる家庭養護シリーズ 第1巻『家庭養護のしくみと権利擁護』(相澤仁*編集代表・伊藤嘉余子*編者・澁谷昌史*編者・石田賀奈子・安藤藍・島玲志・林浩康・石田慎二・栄留里美, 明石書店)	2021
	著書(共編者(共編著者))	『楽しく学ぶ社会福祉』(黒田学・長谷川千春・丹波史紀・石田賀奈子・中村正・田村和宏・呉世雄・宮口幸治・桜井啓太・松田亮三・、鎮目真人・竹内謙彰・岡田まり・秋葉武・前田信彦, ミネルヴァ書房)	2021. 5
	研究発表等(単独)	「子ども家庭福祉における権利保障実現に向けた課題」(日本医療政策学会第5回研究会)	2021. 8
	研究発表等(共同)	「児童養護施設退所者の退所後の生活状況と幼少期体験の関連に関する実態調査」(和田一郎, 日本社会福祉学会第69回秋季大会)	2021. 9
	研究発表等(単独)	「児童養護施設を経験した若者の幼少期逆境体験に関連する要因」(2021年度人間科学研究所年次総会シンポジウム「ライフコースをささえる人間科学の課題―「18歳の崖」を乗り越えるシームレスな支援に向けて」)	2022. 2
石田 智巳	著書(分担執筆)	『日本の民主教育2021』(大月書店)	2022. 1
	論文(単著)	「「GIGA スクール構想」を検討する」(学校体育研究同志会『たのしい体育・スポーツ』No.322)60-63頁	2022. 1
	研究発表等(単独)	「理論研究とその方法」(日本体育科教育学会)	2021. 6

石田 智巳	研究発表等 (共同)	「体育授業における技術認識と集団関係の変容—グループ学習を手がかりに—」(森敏生・丸山真司・石田智巳・玉腰和典, 日本体育科教育学会)	2021. 6
	研究発表等 (共同)	「体育におけるグループ学習の変容過程 —「学習としての評価」を視点として—」(森敏生・石田智巳・玉腰和典・丸山真司, 日本教科教育学会)	2022. 9
市井 吉興	著書(監修)	『バスケールと都市: トレーサーのエスノグラフィ』(市井吉興・住田翔子・平石貴士・塩見俊一・三谷舜, ミネルヴァ書房)	2022. 3
	論文(単著)	「オリンピックが生み出す「資本主義リアリズム」——現代オリンピックと資本主義の諸相への一考察」(『大原社会問題研究所雑誌』755・759合併号, 大原社会問題研究所)91-110頁	2021. 9
	論文(単著)	「2020東京オリンピックの延期開催から考えなければならないこと」(総合社会福祉研究所『月刊 福祉のひろば』)	2021.10
伊東 寿泰	論文(単著)	「時代錯誤か、有効か—現代の文学的方法のヨハネ福音書解釈への適用をめぐる—」(日本新約学会『新約学研究』49巻) 7-28頁	2021. 7
	論文(単著)	論評「山口希生著:『神の王国』を求めて: 近代以降の研究史」(日本基督教学会『日本の神学』60巻)124-129頁	2021. 9
文 楚雄	論文(単著)	「文学作品におけるアスペクト助詞「了」について——ノーベル文学賞受賞作家莫言の《豊乳肥臀》を中心に——」(『立命館産業社会論集』57巻 4号) 55-69頁	2022. 3
漆原 良	研究発表等 (単独)	「電気刺激, インターナルフォーカスと受動的接触が運動学習に与える影響の比較」(漆原良・永楽卓也・村上雅治, 日本生理人類学会 第82回大会)	2021.10
江口 友朗	研究発表等 (単独)	「分析フレームワークと概念的再構築の課題: アジア環境福祉国家分析のために」(『人的ネットワークの経済効果を組み込んだ所得再分配構造のモデル化: タイを中心に』科研費研究会)	2021. 7
呉 世雄	著書(共著)	『たのしく学ぶ社会福祉—誰もが人間らしく生きる社会をつくる』(ミネルヴァ書房)60-74頁	2021
	著書(共著)	『地域福祉と包括的支援システム—基本的な視座と先進的取り組み』(明石書店)	2021. 6
	論文(単著)	「日本の子ども食堂—触れ合いと参加による地域福祉」(韓国社会福祉協議会『月刊 福祉ジャーナル』(150))54-57頁	2021
	論文(単著)	「地震災害と社会福祉—東日本大震災から10年」(韓国社会福祉協議会『月刊 福祉ジャーナル』(151))52-55頁	2021
	論文(単著)	「阪神淡路大震災と災害支援システムの構築」(韓国社会福祉協議会『月刊 福祉ジャーナル』(152))54-57頁	2021. 4
	論文(単著)	「社会的孤立の深化—同居孤独死の増加」(韓国社会福祉協議会『月刊 福祉ジャーナル』(153))54-57頁	2021. 5
	論文(単著)	「社会福祉士養成課程のカリキュラム改定」(韓国社会福祉協議会『月刊 福祉ジャーナル』(154))54-57頁	2021. 6
	論文(単著)	「終活支援: 人生の最期への備えと支援」(韓国社会福祉協議会『月刊 福祉ジャーナル』(155))54-57頁	2021
	研究発表等 (単独)	「韓国における社会的企業の展開と新たな可能性」(東京都ソーシャルファームセミナー)	2021. 5
大谷いづみ	著書(分担執筆)	「＜問＞の生を聴く／＜問＞の生を語る」『見捨てられる＜いのち＞を考える——京都 ALS 囁託殺人と人工呼吸器トリアージから』(安藤泰至・島園進編著／川口有美子・大谷いづみ・児玉真美「第2部「安楽死」「尊厳死」言説といのちの学び」, 晶文社, 106-137頁)	2021.10

大谷 いづみ	著書(分担執筆)	「ディスカッション」(安藤泰至・大谷いづみ・島蘭進)『見捨てられるくいのち>を考える——京都 ALS 嘱託殺人と人工呼吸器トリアージから』(安藤泰至・島蘭進 編著／川口有美子・大谷いづみ・児玉真美「第2部「安楽死」「尊厳死」言説といのちの学び」, 晶文社, 154-162頁)	2021.10
	論文(単著)	「歴史の忘却と連続性——語られてきたナチス「安楽死」政策とコロナ禍の現在」(医薬情報研究所『新薬と臨牀』第70巻12号)59 (1535)-66 (1542)頁	2021.12
	研究発表等 (単独)	「安楽死・尊厳死論の歴史と宗教——「わたし・たち」の物語を語り直すために」(東本願寺教学研究「生老病死と現代」所内研究会)	2021. 6
	研究発表等 (単独)	「開会の挨拶・報告「分断ではなく架橋へ」(立命館大学生存学研究所「情報保障のいまとこれから——生存学研究所の取り組み」)	2021.11
	研究発表等 (共同)	「教育におけるアクセシビリティと障害学生の存在が拓く SDG's 社会の未来」(大谷いづみ・川端美季, 産業社会学部 FD)	2022. 2
	研究発表等 (単独)	「障害の経験」を共有する痛み(と希望)「(閉会挨拶に代えて)(立命館大学先端総合学術研究科院生プロジェクト「障害者と労働」研究会 2021年度公開研究会「重度障害者の介助付き就労の可能性——「健常者より優秀でない」と社会で生きていけないのか?」)	2022. 2
	研究発表等 (共同)	「高等教育研究機関におけるハンドル形電動車いす利用者の移動アクセシビリティ——欧米韓日を中心に」(大谷いづみ・川端美季, 2021年度人間科学研究年次総会)	2022. 2
	研究発表等 (単独)	「ラウンドテーブル:東アジアにおける障害者の地域における自立生活 座長および日本報告」(障害学国際セミナー 2022)	2022. 2
	その他(単独)	「随筆随想 (1) 死生と関わる主題 通奏低音のように響く」(『中外日報』4面)	2021.10
	その他(単独)	「随筆随想 (2) なぜ? という問い 番組が与える影響懸念」(『中外日報』4面)	2021.10
	その他(単独)	「随筆随想 (3) 「わきまえ」の分水嶺 端的に表れる社会のひずみ」(『中外日報』4面)	2021.10
	その他(単独)	「随筆随想 (4) 「謝罪文に思う 加害—被害間に越えがたい溝」(『中外日報』4面)	2021.10
	その他(単独)	「「安楽死」論の拡大懸念 (生きたい社会に ALS 嘱託殺人／5)」(『毎日新聞』京都版)	2021.12
大谷 哲弘	研究発表等 (共同)	「東日本大震災後の児童生徒の震災想起の推移」(山本奨・大谷哲弘, 日本教育心理学会第63回総会発表論文集 P361)	2021. 9
	研究発表等 (共同)	“Support strategy from high school teachers for students' job application in Japan.” (TAKESHITA, H. & OHTANI, T., Psychology of Education Section Annual Conference 2021)	2021. 9
	研究発表等 (単独)	「岩手県における東日本大震災後の児童生徒への心理的支援の原則」(日本医療政策機構 (HGPI) こどもの健康プロジェクト 第2回専門家会合「こどものメンタルヘルスに対する教育現場の課題と解決に向けた方策」)	2022. 3
大野 威	論文(単著)	「アメリカにおける反苦汗運動の発展と最低賃金法の成立: イギリスとの比較において」(『立命館産業社会論集』57巻4号)21-35頁	2022. 3
岡田 桂	著書(分担執筆)	<i>Challenging Olympic Narratives: Japan, the Olympic Games and Tokyo 2020/21</i> (Ergon-Verlag)	2021.10
岡本 尚子	著書(分担執筆)	『中等数学科教育法序論』(黒田恭史編, 共立出版)	2022. 3

岡本 尚子	論文(共著)	「立方体の切断課題遂行時における学習者の視線移動の特徴—視線移動計測実験の分析を通して—」(青木駿介・岡本尚子・黒田恭史, 『数学教育学会誌』62巻1・2号)121-129頁	2021.9
	論文(共著)	「何が調査への参加継続を支えるのか—妊婦を対象とした縦断研究「いばらきコホート調査」をもとに」(神崎真実・妹尾麻美・孫怡・肥後克己・土本哲平・中田友貴・鈴木華子・安田裕子・サトウタツヤ・岡本尚子・矢藤優子『パーソナリティ研究』30巻3号)130-133頁	2021.12
	論文(共著)	「妊娠期女性用 QOL 尺度の作成と信頼性・妥当性の検討」(孫怡・矢藤優子・妹尾麻美・神崎真実・肥後克己・川本静香・中田友貴・安田裕子・鈴木華子・岡本尚子・サトウタツヤ, <i>Journal of Health Psychology Research</i> Volume 34 Issue 2)51-57頁	2022.2
	研究発表等 (共同)	“Consideration of Characteristics of Eye Movement and Brain Activity during Mental Rotation Tasks” (Tatsuki kondo, Naoko Okamoto, Yasufumi Kuroda, The 14th International Congress on Mathematical Education)	2021.7
	研究発表等 (共同)	「複合的生理学データを活用した学習者の思考過程解明の可能性について」(黒田恭史・近藤竜生・岡本尚子, 第46回教育システム情報学会全国大会)	2021.9
	研究発表等 (共同)	「メンタルローテーション課題時の視線移動の特徴の考察」(近藤竜生・岡本尚子・黒田恭史, 第46回教育システム情報学会全国大会)	2021.9
	研究発表等 (共同)	「二人での打楽器演奏中の脳活動計測による社会性の議論の検討」(江田英雄・黒田恭史・岡本尚子・山崎まどか, 第15回日本音楽医療研究会学術集会)	2022.2
	研究発表等 (共同)	「妊娠から産後移行期間における女性 QOL の4時点変化について—潜在曲線モデルを用いて」(孫怡・矢藤優子・神崎真実・妹尾麻美・肥後克己・中田友貴・安田裕子・岡本尚子・鈴木華子・サトウタツヤ, 日本発達心理学会第33回大会)	2022.3
小澤 亘	論文(単著)	「外国にルーツを持つ児童生徒の学習権をいかに保障するか—立命館大学 DAISY 研究会 (Rits-DAISY) の挑戦」(『立命館産業社会論集』57巻1号)15-36頁	2021.6
	研究発表等 (共同)	「外国籍の児童に対する音声教材を活用した日本語指導—日系ブラジル人児童を対象に—」(小澤亘, 今枝史雄, 金森裕治, 楠敬太, 福井善章, 河村宏, 日本 LD 学会第30回大会 自主シンポジウム J21)	2021.12
御旅屋 達	著書(分担執筆)	『新グローバル時代に挑む日本の教育:多文化社会を考える比較教育学の視座』(恒吉僚子・額賀美紗子, 東京大学出版会)	2021.5
	論文(単著)	「大人の発達障害者のコミュニティにおけるメンバーシップの構成」(『福祉社会学研究』18巻)151-174頁	2021.5
景井 充	論文(単著)	「“京北プロジェクト” からソーシャルデザインへ—縮小社会における社会的ソーシャルデザインの実践へ向けて—」(『立命館産業社会論集』57巻3号)109-121頁	2021.12
	論文(単著)	「現代「棄民」研究 — (1)江戸三大飢饉と新自由主義的「選択と集中」—」(『立命館産業社会論集』57巻4号)1-20頁	2022.3
角田 将士	著書(分担執筆)	『小学校教育用語辞典』(細尾萌子・柏木智子編集代表, ミネルヴァ書房)	2021.5
	著書(分担執筆)	『新・教職課程演習第17巻 中等社会系教育』(國分麻里・川口広美編著, 協同出版)	2021.12
	著書(分担執筆)	『社会科重要用語事典』(棚橋健治・木村博一編著, 明治図書)	2022.3

角田 将士	論文(単著)	「全国社会科教育学会の広場 私の視点・私の授業 リレー連載第6回 社会科教育の責任—教育に対する広範な要求にどのように向き合うか—「今こそ、民主主義社会の形成という社会科の理念を明らかに」」(明治図書『社会科教育』749号)120-123頁	2021. 9
	論文(単著)	「国際理解でおさえておきたい「このテーマ」どう教えるか「戦争・平和」その手立てとポイント「『戦争体験の継承』の意味を問い直し戦争や平和に対する常識的な見方・考え方から脱却するための授業を」」(明治図書『社会科教育』751号)24-27頁	2021.11
	その他 (単独講演)	「これからの社会系教科授業に求められるもの—『見方・考え方』の成長を意識した授業づくり—」(尾張地区高等学校地理歴史・公民科教育研究会)	2021. 5
	その他(単独)	教員免許状更新講習(オンライン)「魅力ある社会科授業の創造」(立命館大学)	2021. 7
柏木 智子	著書(編者 (編著者))	『小学校教育用語辞典』(細尾萌子・柏木智子, ミネルヴァ書房)	2021. 5
	著書(分担執筆)	「学校と家庭・地域の連携」『新版 教育制度と教育の経営—学校—家庭—地域をめぐる教育の営み』(諏訪英広・福本昌之編著, あいり出版)170-183頁	2021. 9
	著書(分担執筆)	「学校ガバナンスの課題と今後の展望—学校運営協議会等での熟議における公的機関の役割」『公教育制度の変容と教育行政—多様化、市場化から教育機会保障の再構築に向けて』(横井敏郎・滝沢潤・佐藤智子編著)167-182頁	2021.10
	著書(分担執筆)	「子どもの貧困対策としての教育政策の実施過程における課題」『福祉政策研究入門第1巻 政策評価と指標 少子高齢化のなかの福祉政策』(埋橋孝文編著, 明石書店)171-185頁	2022. 3
	著書(分担執筆)	「兵庫県明石市」「兵庫県尼崎市」「一斉休校の中での子どもたちへのケアと支援」『一斉休校—そのとき教育委員会・学校はどう動いたか?』(末富芳編著, 明石書店)	2022. 3
	論文(共著)	「教員評価制度における成果報酬に連動した勤務評価に対する被評価者の納得度に関する定性分析—テキストマイニングを用いた自由記述データの分析」(諏訪英広・高谷哲也・湯藤定宗・林孝・田中真秀, 『川崎医療福祉学会誌』Vol.31 No.1)233-243頁	2021
	論文(単著)	「子どもの生と学びを保障する学校づくり—「ケア」に着目して」(『日本教育経営学会紀要』第63号)35-51頁	2021. 6
	論文(単著)	「子どもの貧困支援のための外部連携」(学事出版『月刊高校教育』54巻12号)28-31頁	2021.11
	論文(単著)	「個別最適な学び」とケア」(学事出版『授業づくりネットワーク』No.40)64-69頁	2021.12
	論文(共著)	「学習支援事業者と学校との連携に関する基礎調査」(仲田康一・大林正史, 『大東文化大学教職課程センター』(6))1-10頁	2021.12
	論文(共著)	「学習支援事業者と学校との連携の実態と課題—生活支援を重視する事業者との連携に着目して」(大林正史・仲田康一, 『鳴門教育大学研究紀要』第37巻)164-174頁	2022. 3
	論文(単著)	「子どもの貧困問題の改善に向けた学習・生活保障における課題—学校と学習支援事業者に着目して—」(日本学習社会学会『学習社会研究』第4号)128-145頁	2022. 3
	研究発表等 (単独)	「変動する社会の中の学校・教師の再定義: COVID-19のインパクトを問う—学校における公正・ケアの促進と「学び」の展望」(日本教師教育学会第31回研究大会課題研究I)	2021. 9

柏木 智子	研究発表等 (共同)	「一斉休校—そのとき教育委員会・学校はどう動いたか?」(末富芳・葉養正明・佐藤博志・元兼正浩・篠原岳司, 日本教育行政学会第56回大会)	2021.10
	研究発表等 (単独)	「『コロナ後の時代 問われる義務教育の姿』『子どもの生と学びを保障するケアする学校づくり』」(第5回日本義務教育学会研究大会シンポジウム)	2021.11
	研究発表等 (単独)	「コロナ後の世界を読む—ケアと社会関係—」(日本社会関係学会第2回研究大会シンポジウム)	2022.3
	その他 (共同報告書)	『ICTを活用した公正で質の高い教育の実現』(研究代表者: 藤原文雄)国立教育政策研究所(フェイズ2シンポジウム報告書)	2021.11
	その他(単独)	「ポストコロナの学びとは」(多様性が求められるこれからの公教育)	2021.5
	その他(共同)	「GIGA スクール構想の実現に向けて、事務職員の役割を考える～教育×ICTの新しい時代～」(讀井康智(Life's Tech), 西宮市事務職員研修)	2021.8
	その他(単独)	「困りごとを抱える児童生徒の背景的要因と学校の取組み」(京都市立下京中校区教職員研修)	2021.8
	その他(単独)	「いま、学校と社会をつなぐとは—トランジションと地域移動」(学校と社会をつなぐ調査(通称: 10年トランジション調査): 溝上慎一代表)	2021.9
	その他(単独)	「学校の役割と他機関や地域との連携—学校における公正・ケアの促進と「学び」の展望」(SENS 京都全体研修会)	2021.10
	その他(単独)	「学校と一緒に地域をつくろう」(松原市立松原第七中学校区子育て講演会)	2021.12
	その他(単独)	「『総合的な探究の時間』研修会—探究学習を探究する」(大阪市立ビジネスフロンティア高等学校教職員研修)	2022.1
加藤 潤三	著書(分担執筆)	「フィールド研究2: 写真調査法」(古谷嘉一郎・村山綾(編), 『やってみよう! 実証研究入門: 心理・行動データの収集・分析・レポート作成を楽しむ』ナカニシヤ出版)167-178頁	2022.3
	論文(単著)	「若者における「新しい生活様式」の測定とその規定因の検討」(『立命館産業社会論集』57巻3号)97-107頁	2021.12
金澤 悠介	著書(単著)	「『社会的公正』をめぐる意識の変容: 不公平感の計量社会学」水島治郎・米村千代・小林正弥(編)『公正社会のビジョン: 学際的アプローチによる理論・思想・現状分析』(明石書店)72-98頁	2021.4
	著書(単著)	「格差覚醒時代の階層帰属意識」渡邊勉・吉川徹・佐藤嘉倫(編)『シリーズ少子高齢社会の階層構造2 人生中期の階層構造』(東京大学出版会)145-166頁	2021.10
	論文(単著)	「現代における信頼生成メカニズム」(医学書院『保健師ジャーナル』Vol.77 No.8)646-651頁	2021.8
	論文(共著)	“Bundle of Rights Reversed: Anticommons in a Japanese Common Property Forest Due to Legalization” (Gakuto Takamura, Takashi Nishide, Yusuke Kanazawa, Masahide Hayashi, <i>International Journal of the Commons</i> Vol. 15 No. 1)259-275頁	2021.8
	研究発表等 (単独)	“A Critical Examination of measurement of the generalized trust question” (13th Annual INAS Conference 2021 online (INAS 2021 online))	2021.5
	研究発表等 (単独)	「パネル調査から見る震災被災地住民の生活の変化(シンポジウム 継続的地域調査からみる震災被災地10年のあゆみ: 岩手県大船渡市を対象として)」(第71回数理社会学会大会)	2021.9
	研究発表等 (共同)	「社会意識の分断」という観点から見た現代日本の政治意識の構造」(金澤悠介・橋本努, 第94回日本社会学会大会)	2021.11

金山 千広	論文(単著)	「新型コロナウイルス感染流行を背景とした障害者優先スポーツ施設の再開情報発信に関する研究」(金山千広・児玉友, 日本障がい者体育・スポーツ研究会『2021研究紀要』45集)41-42頁	2022. 3
	論文(単著)	「障害者スポーツ・レクリエーション「オンライン運動会」に関連したプログラム開発: 京都障害者スポーツ振興会の取り組みから」(公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金『2021年度ユニバーサルスポーツ研究事業報告書』)18-23頁	2022. 3
	研究発表等 (共同)	“JAPANESE JUNIOR SWIMMERS' IMPRESSIONS UPON WATCHING PARASWIMMING RACES: COMPARISON OF IMPRESSIONS ABOUT A SHARED SPORT” (The 23rd International Symposium of Adapted Physical Activity (Online ISAPA 2021))	2021. 6
	研究発表等 (共同)	“MANAGEMENT OF SPORT FACILITIES FOR PEOPLE WITH DISABILITIES IN JAPAN DURING THE COVID-19 PANDEMIC : RESEARCH ON RULES OF USE OF FACILITIES AT REOPENING AFTER TEMPORARY CLOSURE” (The 23rd International Symposium of Adapted Physical Activity (Online ISAPA 2021))	2021. 6
	研究発表等 (単独)	「女子車いすバスケットボール選手が知覚する指導者の社会的勢力: 指導者への満足を規定する諸要因の検討」(日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会)	2021. 9
金子 史弥	著書(分担執筆)	<i>Sport Participation and Olympic Legacies: A Comparative Study</i> (Routledge)	2021. 8
	論文(単著)	「「ナショナル・イベント」としての東京2020大会とその<レガシー>」(後藤・安田記念東京都市研究所『都市問題』112巻10号)38-49頁	2021.10
	その他	「「総花的になりがちな「五輪レガシー」の初志とは何だったのか?」立命館大学産業社会学部金子史弥准教授に聞く (前編)」(『日経 XTECH』)	2021. 7
	その他	「「五輪レガシー活用」のグランドデザインを描き、都から独立した機関で推進を」立命館大学産業社会学部金子史弥准教授に聞く (後編)」(『日経 XTECH』)	2021. 7
	その他(単独)	「<検証 コロナ下の五輪> (5)遺産 大会の功罪 検証必要」(『北海道新聞』)	2021. 8
	その他(単独)	「五輪「レガシー」止まらぬ赤字」(『朝日新聞』)	2021.10
権 学俊	著書(共著)	「『季刊三千里』からみられる在日韓国・朝鮮人の昭和五〇年代—三つの国家と揺らぐアイデンティティー」 福岡良明編『昭和五〇年代論—「戦後の終わり」と「終わらない戦後」の交錯」(みずき書林)231-275頁	2022. 3
	論文(単著)	「帝国日本の国家戦略に関する一考察—1920年代における身体をめぐる政治と民衆」(『日本研究』第56号, 中央大学校日本研究所)187-213頁	2022. 2
	論文(単著)	「東京2020オリンピックのポリティクスと国家主義」(『日本研究』第37巻, 高麗大学校グローバル日本研究院)259-304頁	2022. 2
	論文(単著)	「植民地朝鮮における飛行機表象と朝鮮総督府の航空政策(上)」(『立命館産業社会論集』57巻4号)37-53頁	2022. 3
	その他(単独)	「五輪開催可否基準への明確な回答避ける 首相会見にみる姿勢」(『京都新聞』)	2021. 5
	その他(単独)	「耕論 天皇と五輪の微妙な関係 開会宣言と感染懸念の「拝察」」(『朝日新聞』)	2021. 7
	その他(単独)	「なぜ再び東京で開催か「緻密な議論なかった」五輪の風 番外編」(『京都新聞』)	2021.10

黒田 学	著書 (共編著者)	『たのしく学ぶ社会福祉—誰もが人間らしく生きる社会をつくる—』(丹波史紀・石田賀奈子・黒田学・長谷川千春(編著), ミネルヴァ書房)	2021.5
	論文(共著)	「ASEANにおける障害児教育・福祉とインクルーシブ社会構築に関わる動向と課題—ベトナムとカンボジアの事例を通じて—」(黒田学・間々田和彦『立命館産業社会論集』57巻1号)93-112頁	2021.6
	論文(単著)	「特集 特別ニーズ教育に関わる比較研究の今日的意味—窪島務・間々田和彦、千賀愛の論稿を通じて考える—」(日本特別ニーズ教育学会『SNEジャーナル』27巻1号)48-56頁	2021.6
	論文(共著)	「出前の社会教育訪問学級のはじまりと障害者の生涯学習—東京都中野区および日野市の社会教育訪問学級を事例に—」(清水貞夫・黒田学『立命館産業社会論集』57巻4号)141-152頁	2022.3
	研究発表等 (単独)	「外国特別ニーズ教育研究のバトンリレー—ベトナム研究から世界に視点を向けて—」(日本特別ニーズ教育学会2021年6月中旬集会)	2021.6
	研究発表等 (単独)	「指定討論者としての発言(理事会企画・課題研究「特別ニーズ教育と比較教育学の地平」)」(日本特別ニーズ教育学会第27回研究大会)	2021.10
斎藤 真緒	著書(その他)	「一人ひとりの権利が守られる社会へ 鼎談 ヤングケアラーを考える」(全日本民医連民医連新聞(1748))	2021.11
	著書(分担執筆)	「ヤングケアラー 問題の顕在化」『最新教育動向2022』(明治図書)182-185頁	2021.12
	著書(分担執筆)	「子ども・若者ケアラー支援から考えるケアの政治—ケアラーをめぐる政治の射程」富士谷あつ子・新川達郎編『フランスに学ぶジェンダー平等の推進と日本のこれから—パリテ法制定20周年をこえて』(明石書店)235-248頁	2022.1
	著書(共編者 (共編著者))	『子ども・若者ケアラーの声からはじまる—ヤングケアラー支援の課題』(クリエイツかもがわ)	2022.2
	論文(分担執筆)	「子ども・若者ケアラー(ヤングケアラー)を支える:当事者の経験と声を中心にすえた支援策を考える」『前衛』(日本共産党中央委員会(1004))	2021.9
崎山 治男	論文(単著)	「社会調査という関係性と感情経験:ラポール・感情ワーク・実践」(『立命館大学産業社会論集』57巻2号)17-29頁	2021.9
桜井 啓太	著書(共著)	『子育て罰——「親子に冷たい日本」を変えるには』(末富芳・桜井啓太, 光文社)	2021.7
	著書(分担執筆)	『慢性疼痛ケースブック』(明智龍男・杉浦健之編著, 医学書院)	2021.7
	著書(分担執筆)	『貧困に対する支援』(岩永理恵・後藤広史・山田壮志郎編著, ミネルヴァ書房)	2021.10
	論文(単著)	「生活保護における自立支援と統治:インセンティブ、コンディショナリティ、産福複合体(貧困—産業複合体)」(法政大学大原社会問題研究所『大原社会問題研究所雑誌』753号)31-47頁	2021.7
	論文(単著)	「生活保護現場における新たな保護の引き締め——大阪市を例に——」(部落問題研究所『人権と部落問題』951号)36-43頁	2021.9
櫻井 純理	論文(単著)	「テレワークがもたらす労働時間の曖昧化と「ジョブ型雇用」論」(全労済協会『WELFARE』No.11)46-52頁	2021.10
笹野恵理子	著書(分担執筆)	『初等生活科教育, 初等音楽科教育, 初等図画工作科教育, 初等家庭科教育, 初等体育科教(新・教職課程演習) 第15巻』(石崎和宏・中村和世編著, 協同出版)	2021.7

笹野恵理子	著書(分担執筆)	『中等音楽科教育, 中等美術科教育, 中等家庭科教育, 中学校技術分野教育, 中等保健体育(新・教職課程演習) 第21巻』(宮崎明世・岩田昌太郎編著, 協同出版)	2021.10
	著書(編者(編著者))	『教科を融合した多角的活用型教材の開発—カリキュラムガイド—』(笹野恵理子編著, オンライン教材研究会)	2022. 2
	著書(編者(編著者))	『教科横断的学習のカリキュラム・ガイド—「主題」による教科連携を探る—』(NSK 出版)	2022. 3
	論文(単著)	「生涯音楽学習における「合唱する」ことの意味—当事者の音楽経験の「語り」から—」(『京都音楽家クラブ』7月号) 2-5頁	2021. 7
	論文(単著)	「シニア世代の音楽経験の「語り」と意味—生涯音楽学習における当事者の音楽経験の意味を探る—」(笹野恵理子・菅道子・山崎由可里, 前川ヒトづくり財団『前川ヒトづくり財団研究助成成果報告書』)	2021.10
	論文(分担執筆)	「学習活動の開発」(笹野恵理子他, 日本学校音楽教育実践学会『学校音楽教育実践論集』5号)28-38頁	2022. 3
	論文(単著)	「シニア世代の「生涯の学びの履歴」にみる学校音楽のカリキュラム経験—生涯音楽学習の視点からみる「回顧的」カリキュラム—」(音楽学習学会『音楽学習研究』17巻)35-43頁	2022. 3
	研究発表等(共同)	「シニア世代の音楽経験の「語り」と意味—生涯音楽学習における当事者の音楽経験の意味を探る—」(笹野恵理子・菅道子・山崎由可里, 公益財団前川ヒトづくり財団研究助成成果報告会)	2021. 8
	研究発表等(単独)	「生涯学習の視点からみる学校音楽経験の意味—学校音楽の「語り」と分析—」(日本教育方法学会第57回大会)	2021. 9
	研究発表等(共同)	「カリキュラム研究」の視点からみる音楽科教育の実践と研究:共同企画「音楽科教育の実践研究を問い直す」(日本音楽教育学会第52回大会)	2021.10
	研究発表等(共同)	「実行委員会企画:オンラインで発信する能の学習/指導—教育実践のケーススタディと提案:能《敦盛》を例に—」(奥忍・菅道子・笹野恵理子・杉江淑子・村尾忠廣, 日本音楽教育学会第52回大会)	2021.10
	研究発表等	「教育課程の基準(学習指導要領)をどう評価するか」(コーディネーター:清水美憲(筑波大学)/提案者:笹野恵理子・西村圭一・柳沼良太/指定討論者:淵上孝(文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育局担当))・中垣真紀(ベネッセ教育総合研究所・主任研究員), 教科教育学コンソーシアム第2回シンポジウム)	2022. 3
	その他(共同)	Peter and the Wolf Curriculum Guid—小学校英語(外国語活動・外国語)・音楽・図画工作・総合・特別支援教育—でつかえる教科連携オンライン教材	2022. 3
鎮目 真人	著書(分担執筆)	『たのしく学ぶ社会福祉—誰もが人間らしく生きる社会をつくる』(丹波史紀・石田賀奈子・黒田学・長谷川千春)	2021. 5
	論文(その他)	「インタビュー:里見賢治先生—福祉政策・社会保障論研究と教育への想い」(鎮目真人・村田隆史, 関西社会福祉学会『関西社会福祉研究』8号)	2022. 3
	研究発表等(単独)	「年金制度における不人気改革の制度分析—制度縮減の理論と検証—」(第16回社会保障国際論壇)	2021. 8
下條 正純	論文(単著)	「ライトノベルにおける発話表現と人物像をめぐる幻想—「こと」, 「ことよ」, 「て?」, 「てよ」—」(『立命館産業社会論集』57巻3号)83-96頁	2021.12
杉本通百則	著書(分担執筆)	「公害—国と企業の責任を問う—」(丸善出版日本科学史学会編『科学史事典』)442-443頁	2021. 5

杉本通百則	著書(分担執筆)	「廃棄物問題—大量生産・大量消費社会を問う—」(丸善出版日本科学史学会編『科学史事典』)448-449頁	2021.5
住家 正芳	論文(単著)	「厦門の魯迅と「尊孔」校長林文慶（上）」(『立命館産業社会論集』57巻4号)165-177頁	2022.3
住田 翔子	著書(共訳) 論文(単著)	『パルクールと都市：トレイサーのエスノグラフィ』(ミネルヴァ書房) 「パルクールと都市文化：都市のみかたとつかいかた」(立命館大学人文科学研究『立命館大学人文科学研究紀要』130号)29-47頁	2022.3 2022.1
高橋 顕也	論文(単著)	「社会学とシステム理論の錯綜した関係を見透すことのできる稀有な地図」(『図書新聞』3513号)	2021.9
竹内 謙彰	著書(分担執筆) 論文(単著) 研究発表等 (単独)	『たのしく学ぶ社会福祉—誰もが人間らしく生きる社会を作る—』(ミネルヴァ書房) 「主体的学び態度尺度の作成」(『立命館産業社会論集』57巻1号)79-92頁 「成人期における主体的な学び態度の年齢による違い—質問紙調査による検討—」(日本教育心理学会第63回総会)	2021.5 2021.6 2021.8
武岡 暢	論文(共著) 論文(単著) 論文(単著) 論文(単著) 研究発表等 (単独)	「自著紹介『変容する都市のゆくえ—複眼の都市論—』」(三浦倫平・武岡暢, 多摩ニュータウン学会『多摩ニュータウン研究』23号)165-168頁 「テック業界の都市社会学者」(トゥーヴァー ジンズ『MEZZANINE』VOLUME 5)60-63頁 「(あるいは退屈な)岩盤の都市論を求めて——野生、学術、社会学」(『建築討論』) 「尾高邦雄はなぜ職業社会学を維持できなかったか——もうひとつの職業概念に向けて」(新曜社『社会の解読力〈文化編〉——生成する文化からの反照』)157-180頁 「尾高邦雄の職業社会学構想の再検討——脱・労働中心主義の試み」(第94回日本社会学会大会)	2021.5 2021.10 2021.12 2022.3 2021.11
武田 淳	論文(単著)	“Uncovering ethical concerns through reflexivity — ethics in practice in fieldwork” (International Journal of Social Research Methodology)	2021
竹濱 朝美	論文(共著)	「変動性再エネ電源導入による2040年の電力需給と出力抑制の考察」(竹濱朝美・歌川学, 日本環境学会日本環境学会『第47回研究発表会, 2021年, 予稿集』)5-6頁	2021.7
田村 和宏	著書(共著) 著書(共著) 論文(単著) 論文(単著) 論文(単著) 論文(単著)	「第4章 障がいのある個人の権利と平等」(『たのしく学ぶ社会福祉—誰もが人間らしく生きる社会をつくる—』ミネルヴァ書房)45-59頁 「障害児入所施設の「過齡児」の課題」(『2022年度 発達障害白書』) 「重症心身障害児施設萌芽期の指導者から学ぶ 第1回」(人間発達研究所『人間発達研究所通信』) 「重症心身障害児施設萌芽期の指導者から学ぶ 第2回」(人間発達研究所『人間発達研究所通信』Vol.37 2号)15-17頁 「重症心身障害児施設萌芽期の指導者から学ぶ 第3回」(人間発達研究所『人間発達研究所通信』Vol.37 3号) 「ていねいに心をつなげることから 自分づくりの扉が開いていく」(一般社団法人日本学童保育士協会『学童保育研究』22号)84-87頁	2021.5 2021.9 2021.6 2021.9 2021.12 2021.12
丹波 史紀	著書(編著者)	『たのしく学ぶ社会福祉—誰もが人間らしく生きる社会をつくる—』(丹波史紀・石田賀奈子・黒田学・長谷川千春(編著), ミネルヴァ書房)	2021.5

丹波 史紀	著書(分担執筆)	『貧困に対する支援』(岩永理恵・後藤広史・山田壮志郎編著, ミネルヴァ書房)	2021.10
	著書(共著)	『原発被災した地域を支え、生きる—福島モデルの地域共生社会をめざして—』(菊池馨実・鈴木典夫編, 旬報社)	2022. 3
	論文(単著)	「日本国憲法における生存権概念の規定と森戸辰男の役割」(部落問題研究所『部落問題研究』237輯)160-172頁	2021. 5
	論文(単著)	「東日本大震災から10年、私たちはなにを学んだのか」(『福祉のひろば』255(620))	2021. 6
筒井 淳也	著書(単著)	『社会学 (シリーズソーシャル・サイエンス)』(岩波書店)	2021.11
	論文(共著)	「家族の変動と親介護経験:NFRJ18データの分析から」(『第4回全国家族調査 (NFRJ18)第二次報告書』3巻)1-14頁	2021. 9
	論文(共著)	“Gender Differences in Intergenerational Relationships in Contemporary Urban China” (LI Wenwen, TSUTSUI Junya, <i>Japanese Journal of Family Sociology</i> 33巻2号)157-170頁	2021.11
	研究発表等(単独)	「社会学から見た「生涯観」の変化」(日本老年医学会)	2021. 6
	研究発表等(単独)	「ジェンダーの視点からみる「おとな親子関係」とその変化」(大阪府立大学女性学研究センター 2021年度第25期女性学講演会「計量分析から読み解くジェンダーと家族」)	2021.10
	研究発表等(単独)	「コロナ下の女性への影響と課題について」(令和3年度第2回 輝く女性応援京都会議 企画委員会)	2021.12
	研究発表等(単独)	「コロナ共生社会の課題」(NHK 放送文化研究所 文研フォーラム2022)	2022. 3
	その他(単独)	「人口減少社会と家族: 地域における支援のあり方について」(令和3年度民生委員児童委員副会長研修会)	2021.11
	その他(単独)	「家事負担の軽減や、家事のアウトソーシング、現状や課題、今後の方向性について」(内閣府男女共同参画局「人生100年時代の結婚と家族に関する研究会」)	2021.11
	その他(単独)	「計量社会学からみた日本の家族」(広島大学附属高等学校「総合科学」特別講義)	2022. 1
津止 正敏	論文(単著)	「男が介護する」—家族のケアの実態と支援の課題—」(時潮社『月刊ゆたかなくらし』No.467)16-21頁	2021. 6
	論文(単著)	「介護の担い手の変容と「ケアラー支援」の現在地—「介護の社会化」と家族—」(日本共産党中央委員会『前衛』No.1004)104-116頁	2021. 9
	論文(単著)	「男が介護するということ」(日本ジェンダー学会『日本ジェンダー研究』24号)51-59頁	2021.10
	論文(単著)	「介護と「男性」—地域にケアのコミュニティを—」((公財)後藤・安田記念東京都市研究所『都市問題』112巻12号)77-87頁	2021.12
	論文(単著)	「データが示す男性介護者」(有斐閣『リーディングス アジアの家族と親密圏第2巻 結婚とケ』)460-470頁	2022. 3
	研究発表等(単独)	「介護者の孤立を防ぐ取り組み—男性介護者の組織化活動を通して—」(第17回日本高齢者虐待防止学会 WEB 大会 (大阪実行委員会))	2021. 9
富永 京子	論文(単著)	「社会学の社会運動論——隣接領域との関連から」(『新社会学雑誌』5号)33-45頁	2021. 7

富永 京子	研究発表等 (共同)	「過去の社会運動に対する否定的評価は政治参加にどう影響するのか」(日本NPO学会第23回研究大会)	2021. 6
	研究発表等 (単独)	「テレビに映ったのは研究者か、それとも活動家なのか：研究者活動家(Scholar-Activist)の目を通じたマスメディアと社会運動の「分断」」(マス・コミュニケーション学会2021春季大会)	2021. 6
	研究発表等 (単独)	「環境危機と社会教育：小さな社会運動の背景にあるもの」(日本社会教育学会2021年6月集会)	2021. 6
	研究発表等 (単独)	“What is the Role of Mass Media for Activists?: The Process of Forming the Activist Identity under the Gaze of the Media” (Alternative Futures & Popular Protest, 2021)	2021. 6
	研究発表等 (単独)	“Constructing Depoliticized Youth in the late 1970s: The Case of Youth Culture Magazines” (16th International Conference of the European Association for Japanese Studies 24-28 August 2021)	2021. 8
仲井 邦佳	その他 (単独講演)	「大学の単位制度とその実質化—学年暦、時間割、単位互換等の諸問題—」(大阪歯科大学 第1回FDセミナー)	2021. 9
長澤 克重	論文(共著)	「アマゾンのパラドクス：経営戦略と反トラスト法」(立命館大学経営学会『立命館経営学』60巻6号)53-86頁	2022. 3
	研究発表等 (共同)	「アマゾンのパラドクス ec, プラットフォームと「フライホイール」」(長澤克重・池田伸, 経済統計学会関西支部例会)	2021. 7
	研究発表等 (共同)	「電子商取引統計とアマゾンのパラドクス」(長澤克重・池田伸, 経済統計学会第65回全国研究大会)	2021.10
永島 昂	著書(分担執筆)	「労働力不足と中小企業」(櫻井純理編『どうする日本の労働政策』ミネルヴァ書房)108-120頁	2021. 3
	論文(単著)	「高度成長期の鋳物産業(下)」(『立命館産業社会論集』57巻1号)131-144頁	2021. 6
	研究発表等 (単独)	「株主資本主義下の素形材産業」(日本比較経営学会第46回全国大会)	2021. 7
	研究発表等 (単独)	「戦時鋳物工業統制の展開と実態」(経営史学会第57回全国大会)	2021.12
中西 純司	論文(共著)	「Jクラブ経営におけるビジネス化戦略とローカル化戦略の諸相：ABCDモデルを用いたマーケティング・ジレンマの発生可能性の推察」(山本悦史・中西純司, 日本スポーツ産業学会『スポーツ産業学研究』32巻1号)97-116頁	2022. 1
中西 典子	論文(単著)	「「公共性」の問い直しと「地域社会」の再構築に向けて」(京都地方自治総合研究所『地方自治 京都フォーラム』142号)3-13頁	2021. 9
	研究発表等 (単独)	「ポスト福祉国家にみる「新たな公共」と地域社会—「官・民／公・私」関係の再検討を通じて地域社会の公共性を考える—」(国際開発学会研究部会(市場・国家とのかかわりから考える地域コミュニティ開発))	2021. 7
	その他 (単独講演)	「「公共性」の問い直しと「地域社会」の再構築に向けて」(京都地方自治総合研究所総会)	2021. 6
中西 仁	論文(単著)	「神輿荒れはどのように、そしてなぜ起こったのか—明治・大正期京都祇園祭に注目して—」(一般財団法人日本民俗学会『日本民俗学』306号)1-34頁	2021. 5
	論文(単著)	「轅町と若中—近世末から明治初期の祇園祭神輿渡御の担い手たち—」(鷹陵史学会『鷹陵史学』47号)91-124頁	2021. 9

中西 仁	論文(単著)	「京都の祭礼における神輿昇き集団若中に関する考察」(『京都民俗』39号) 35-56頁	2021.11
	論文(単著)	「道德教育としての「福岡駅」実践」(立命館大学教職教育推進機構『立命館教職教育研究』9号)22-31頁	2022. 2
永野 聡	著書(編者 (編著者))	『ロングライフウェルネス～ジェロントロジーの理論と実践～』(永野聡・劉慶紅・三上己紀・浅野高光・森裕之・吉田友彦・江角悠太・柴原吉成・雲井純・三宅民夫・進士五十八・立命館大学永野ゼミジェロントロジー班, 論創社) 7-51-59-62頁	2022. 3
	論文(単著)	「大学の外部資金獲得におけるクラウドファンディングの可能性に関する実証的研究 — ゼミナール活動の予算獲得をケースとして (フォーマルラーニングのフィールドワーク費におけるファンドレイジング活用)」(パーソナルファイナンス学会『パーソナルファイナンス研究』No.8)31-41頁	2021.12
	論文(単著)	「地域包括ケアシステムの構築に向けた対話型アプローチを活用した高齢者一人ひとりの人生設計データの収集法に関する研究—三重県志摩市浜島町浜島地区・大王町波切地区を対象として—」(地域活性学会『地域活性研究』Vol.16)87-93頁	2022. 3
	研究発表等 (共同)	「農山村地域におけるオーセンティケーションにむけた地元参加型アートによる社会ネットワークの構築～まちづくり建築ユニット Doobu 大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ出展活動を事例として～」(永野聡・山近資成, 環境芸術学会2021春季大会概要集)	2021. 5
	研究発表等 (単独)	「地域社会におけるアドバンスド・ケア・プランニング (ACP)の一助となる高齢者一人ひとりの内省化を促進するコンテンツ開発」(地域活性学会第13回研究大会)	2021. 9
	研究発表等 (共同)	「陶磁器産業衰退期における関連事業所の立地動向と空間的課題に関する考察」(岡本肇・永野聡・臼井直, 2021年度日本建築学会大会 [東海])	2021. 9
	その他(共同)	「グループワークのためのオンラインツール活用座談会」(2021年度第2回 Web 授業支援 FD)	2021. 7
	その他(共同)	「アフターコロナに向けた教育実践について(事例報告)」(サマーレビュー)	2021. 7
	その他(共同)	「ポストコロナに向けた授業のありかた」(2021年度京都 FD 交流会)	2022. 1
永橋 爲介	その他(単独)	講師「大学での学びは社会にどうつながるか?」(兵庫県立須磨東高等学校)	2021.10
	その他(単独)	講師「集落営農担当者研修会」(千葉県農林水産部)	2022. 2
中村 正	著書(分担執筆)	『たのしく学ぶ社会福祉:誰もが人間らしく生きる社会をつくる(新・MINERVA 福祉ライブラリー 41)/第2章 家族をとおして社会を考えてみる——親密な関係における社会』(中村正・丹波史紀・石田賀奈子・黒田学, ミネルヴァ書房)	2021. 5
	著書(分担執筆)	『どうする日本の家族政策 (いま社会政策に何ができるか 3): 分担執筆「DV・子ども虐待被害者の脱暴力化支援——親密な関係性における暴力への介入」』(ミネルヴァ書房)	2021.11
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (33)その「ナラティブ」は誰の言葉なのか—沈黙という声、内なる他者の声、支配的な声—」(対人援助学会『対人援助学マガジン』vol.12 No.1)23-32頁	2021. 6
	論文(単著)	「パワーハラスメント被害者に対する行動変容の支援—ナラティブ・セラピーによる対話をとおして」(『都市問題』2021年6月号)17-22頁	2021. 6
	論文(単著)	「学校のなかの「差別」を考える (3)マイクロアグレッションについて」(『教職研修』49 (10))54頁	2021. 6

中村 正	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (34)関係の非対称性と権力の勾配 —「俺のっている講義が休講になったのでこれから会いたい」とラインで言われた女子学生と考えたこと—」(対人援助学会『対人援助学マガジン』vol.12 No.2)21-30頁	2021. 9
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (35)行方不明の＜加害者＞たち—コミュニケーションの微細な懸隔—」(対人援助学会『対人援助学マガジン』vol.12 No.3)21-32頁	2021.12
	論文(単著)	「児童福祉において「男性問題としての暴力」をいかに扱うか—男親と「暴力と加害・責任」の対話を拓く試み」(日本子ども虐待防止学会『子どもの虐待とネグレクト』Vol.23 No.3)237-244頁	2021.12
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (36)暴力の文化— Micro Action for Violence-Free プロジェクト構想—」(対人援助学会『対人援助学マガジン』vol.12 No.4)22-33頁	2022. 3
	研究発表等(単独)	“Some significant points of considering Japanese experience of therapeutic jurisprudence in the field on domestic violence” (Asian Criminological Society 12th Annual Conference)	2021. 6
	研究発表等(単独)	「若年者と司法福祉」(第21回日本司法福祉学会)	2021.12
	研究発表等(共同)	「刑事司法は＜社会問題＞をどのように視野に入れるか—「情状」とは何かをとおして考える」(西谷裕子・市川岳仁・後藤弘子・指宿信, 第37回日本社会病理学会)	2022. 1
	研究発表等(共同)	「ステイホームとケアリーバー—ケアリーバーがコロナ禍の社会を生きるということ」(浦田雅夫・ブローハン聡, 第13回対人援助学会)	2022. 1
浪田 陽子	研究発表等(単独)	「カナダのメディア政策とメディア教育:多文化主義とメディアの関係性に関する一考察」(日本カナダ学会第46回年次研究大会)	2021. 9
	研究発表等(単独)	「コロナ下の今、「新聞」とどう向き合うか:メディアリテラシーの獲得をめざしたNIE」(日本NIE学会第18回京都大会)	2021.12
根津 朝彦	著書(分担執筆)	『言説・表象の磁場 シリーズ戦争と社会4』(「小林金三と『満洲国』建国大学—『北海道新聞』論説陣を支えた東アジアの視座」を担当)(福間良明〔編〕, 岩波書店)131-155頁	2022. 2
	論文(単著)	「書評 森類臣著『韓国ジャーナリズムと言論民主化運動』—『ハンギョレ新聞』をめぐる歴史社会学」(『同時代史研究』14号)122-127頁	2021. 9
	論文(単著)	「書評論文 個人主義をめぐる攻防と男たちの言論界—山本昭宏著『戦後民主主義—現代日本を創った思想と文化』」(『二十世紀研究』22号)43-63頁	2021.12
	研究発表等(単独)	「書評報告 山本昭宏『戦後民主主義—現代日本を創った思想と文化』(中公新書, 2021年)」(京都大学現代史研究会2021年度大会 (Zoom 開催))	2021. 7
	研究発表等(単独)	「コロナ下の今、改めて新聞(ジャーナリズム)の役割を問い直す」(日本NIE学会講演会 (Zoom 開催))	2021.12
	研究発表等(単独)	「指定討論 シンポジウム「コロナ下の今、「新聞」とどう向き合うか」」(日本NIE学会大会 (Zoom 開催))	2021.12
	その他(単独公演)	「戦後ジャーナリズムの行方」(ジャーナリズム研究関西の会)	2021. 9
野原 博人	著書(編者(編著者))	『理科教育の新しいパラダイム』(野原博人・森本信也・渡辺理文, 晃洋書房)	2022. 3
	研究発表等(共同)	「見える化による能動的な学習者の育成 —子どものイメージと説明活動によるモデル構築—」(有泉翔太・野原博人, 日本理科教育学会第71回全国大会)	2021. 9

野原 博人	研究発表等 (共同)	「主体的な学びを促す理科授業デザインの視点(1) —アートの表現する学習環境のデザイン—」(栗生義紀・野原博人, 令和3年度日本理科教育学会近畿支部大会)	2021.11
	研究発表等 (共同)	「主体的な学びを促す理科授業デザインの視点(2) —エージェンシー育成を促す思考の相互的側面—」(野原博人・栗生義紀, 令和3年度日本理科教育学会近畿支部大会)	2021.11
	研究発表等 (単独)	「地域の理科教育の発展に寄与する神奈川 CST の資質・能力」(2021福井 CST・CMT シンポジウム)	2021.12
長谷川千春	著書(共編者 (共編著者))	「少子高齢化がもたらす日本社会の変化」(序章2)、「社会保障・社会福祉の財政」(第8章)(丹波・石田・黒田・長谷川編著 (2021年)『たのしく学ぶ社会福祉 誰もが人間らしく生きる社会をつくる』ミネルヴァ書房)	2021. 5
	著書(共著)	「生活保護：最低保障の仕組み」(塚谷文武・橋都由加子・長谷川千春・久本貴志・渋谷博史著 (2021)『新版 福祉国家と地方財政 地方公共団体の「現場」を支える財政の仕組み』学文社、第1章14)	2021.10
	著書(共著)	「国民皆保険システムと地方公共団体」(塚谷文武・橋都由加子・長谷川千春・久本貴志・渋谷博史著 (2021)『新版 福祉国家と地方財政 地方公共団体の「現場」を支える財政の仕組み』学文社、第5章)	2021.10
	著書(共著)	「市町村と医療福祉」(塚谷文武・橋都由加子・長谷川千春・久本貴志・渋谷博史著 (2021)『新版 福祉国家と地方財政 地方公共団体の「現場」を支える財政の仕組み』学文社、第6章)	2021.10
	著書(共著)	「医療保障政策 “オバマケア” による変化と限界」(河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編著『現代アメリカ政治経済入門』ミネルヴァ書房、第Ⅱ部 政治・政策を捉える 第7章)	2021.10
	論文(単著)	「医療保障改革法(PPACA)の10年—オバマケアの成果と課題—」(国立社会保障・人口問題研究所『社会保障研究』第6巻第2号)130-147頁	2021. 9
樋口 耕一	著書(分担執筆)	『ネット社会と民主主義 —「分断」問題を調査データから検証する—』(有斐閣)	2021.11
	著書(共著)	『動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング——フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析』(ナカニシヤ出版)	2022. 3
	研究発表等 (単独)	「テキストマイニングの世界」(第27回看護診断学会学術大会)	2021. 7
	研究発表等 (単独)	「アンケートにおける自由記述の効果的な利用」(全国英語教育学会第46回長野研究大会)	2021. 8
日暮 雅夫	著書(共訳)	『社会主義の理念——現代化の試み』(日暮雅夫・三崎和志訳, 法政大学出版局)	2021. 8
	研究発表等 (単独)	「アメリカ批判理論の回復力——ジェイ、ゴードン、ブラウン、フレイザー」(関西唯物論研究協会6月例会)	2021. 6
	研究発表等 (単独)	「批判理論における日独の文化的差異の比較」(「人的ネットワークの経済効果を組み込んだ所得再分配構造のモデル化」研究会(科研費: 基盤C_19K12488))	2021. 7
	研究発表等 (単独)	「新自由主義と権威主義とを克服するもの——ジェイ、ブラウン、フレイザー」(司会・企画・シンポジウム「『アメリカ批判理論: 新自由主義への応答』を読む」)	2021. 9
	研究発表等 (単独)	「未来志向の社会的自由: A. ホネットの『社会主義の理念』の分析」(東京唯物論研究会第3回定例会)	2021.10

日暮 雅夫	研究発表等 (単独)	「社会主義的オルタナティブの多様性——大屋氏「アメリカ反資本主義運動の展望」へのコメント——」(経済理論学会・分科会「オルタナティブ社会への通路をめぐる——論点整理」)	2021.10
	研究発表等 (単独)	「セッション企画・報告 「新自由主義的暗黒世界 (ディストピア)における光——M.ジェイ、W.ブラウン、N.フレイザー」(社会思想史学会 (セッションG アメリカ批判理論の挑戦——新自由主義と権威主義の批判))	2021.10
	講演(単独)	「アクセル・ホネット『社会主義の理念』(法政大学出版局)」(司会：三崎和志・コメント：宮本真也、2022新春のブックトーク)	2022. 1
日高 勝之	著書(共著)	<i>Japanese Visual Media: Politicizing the Screen</i> (Routledge)	2021. 8
	論文(単著)	「『終戦』の創られ方と「戦後」の永続化」(『京都メディア史研究年報』7号)	2021. 4
	論文(単著)	「巻頭言 アスリートとは何者か～東京オリンピックとメディアから考える～」(『日本コミュニケーション学会ニュースレター』第128号)	2021.11
	論文(単著)	(著書紹介)「『反原発』のメディア・言説史3.11以後の変容」——10年の節目からの総括と今後の課題——」(『第7回震災問題研究交流会研究報告書』)	2022. 1
	研究発表等 (単独)	“Japanese Newspapers and TV after the Fukushima Nuclear Power Plant Disaster” (Workshop of the Postgraduate School of Transcultural Studies at Kyoto University)	2021. 6
	研究発表等 (単独)	“Japanese Newspaper Editorials on Anti-nuclear Power after the Fukushima Nuclear Disaster” (International Association for Media and Communication Research, Annual Conference in Nairobi, Kenya (Online))	2021. 7
	研究発表等 (単独)	“The Fukushima Nuclear Disaster Ten Years On: Investigating Japanese Newspapers on Nuclear Power” (25th International Conference of European Association for Japanese Studies, Ghent, Belgium (Online))	2021. 8
	研究発表等 (単独)	“Japanese Politics and Nuclear Energy after Fukushima” (International Disaster Justice Workshop (Online))	2021. 9
	研究発表等 (単独)	「コロナの時代における他者への共感～東京オリンピックとアスリート～」(日本コミュニケーション学会関西支部2021年度秋季大会)	2021.11
福岡 良明	著書(編者 編著者)	『シリーズ戦争と社会4 言説・表象の磁場』(編著)(福岡良明(編)※編集委員(シリーズ全5巻): 蘭信三・石原俊・一ノ瀬俊也・佐藤文香・西村明・野上元・福岡良明, 岩波書店)	2022. 2
	著書(編者 編著者)	『昭和50年代論——「戦後の終わり」と「終わらない戦後」の交錯』(編著)(福岡良明(編), みずき書林)	2022. 3
	論文(単著)	“The Arguments on War Experience in Postwar Japan and “Criticism of Victim Mentality” (Research Note)” (京都大学大学院教育学研究科メディア文化論研究室『京都メディア史年報』7号)212-217頁	2021. 4
	論文(単著)	「安田武と「語り難さ」へのこだわり」(筑摩書店(ちくま学芸文庫)安田武『戦争体験——1970年への遺書』)279-297頁	2021. 6
	論文(単著)	「青年学級、大学、そして司馬遼太郎ブーム——格差ゆえに教養が求められた時代」(中央公論新社『中央公論』135(8))46-53頁	2021. 8
	論文(単著)	「司馬遼太郎ブームとビジネス教養主義: ポスト高度成長期における『歴史』と『誤読』」(山口大学時間学研究所編, 恒星社厚生閣『時間学の構築Ⅳ 現代社会と時間』)27-63頁	2022. 2
	研究発表等 (単独)	「大衆教養主義の戦後史」(七隈史学会第23回大会(公開講演))	2021. 9

福岡 良明	研究発表等 (単独)	「戦後日本と戦争体験論の変容:「戦中派」とその時代」(国際学術会議「東アジアにおけるポスト帝国と権力:せめぎあう人、文化、そして境界」)	2022. 1
	研究発表等 (単独)	「戦争とメディア・文化:『継承』の欲望への問い」(シンポジウム「いま『戦争』を考える」)	2022. 1
	研究発表等 (単独)	「今日の大学生にとっての『教養』:『勤労青年の教養文化史』と教養科目をめぐって」(第6回 教養教育研究会)	2022. 1
前田 信彦	著書(単著)	『キャリア教育と社会正義—ライフキャリア教育の探究』(勁草書房)	2022. 1
増田 幸子	論文(単著)	「NHK 連続テレビ小説における「1945年8月15日」の記憶(下)」(『立命館産業社会論集』57巻1号)113-130頁	2021. 6
	論文(共著)	「東京2020オリンピック開会式の中継放送における語り—日本・中国・韓国を中心に—」(増田幸子・張恵英『立命館産業社会論集』57巻4号)123-139頁	2022. 3
松島 綾	研究発表等 (単独)	「率直な語りと真実を結びつける表象関係—エウリピデスの悲劇に見る真実の条件としての構成的外部(狂気、怪物、錯覚)—」(日本コミュニケーション学会第50回年次大会)	2021. 6
	研究発表等 (共同)	「概念としての「コミュニケーション」再考—領域を超えた議論へ向けて—」(司会:松島綾・パネリスト:五十嵐紀子(新潟医療福祉大学)・石黒武人(立教大学)・中西満貴典(元岐阜市立女子短期大学)・松本健太郎(二松学舎大学), 日本コミュニケーション学会第50回年次大会)	2021. 6
	その他 (単独講演)	“Anti Korean Wave and the Construction of Japanese National Identity” (Beyond Europe: Asia, Aesthetics, and Politics)	2022. 3
松田 亮三	著書(分担執筆)	<i>Coronavirus Politics: The Comparative Politics and Policy of COVID-19</i> , with Takashi Nagata, Akihito Hagihara, Alan Kawai Lefor, and Monika Steffen (Scott L. Greer, Elizabeth J. King, Elize Massard da Fonseca, and André Peralta-Santo eds. University of Michigan Press)	2021
	著書(分担執筆)	「社会保障・社会福祉におけるサービス提供—必要と給付の間で」(丹波史紀・石田賀奈子・黒田学・長谷川千春編著『たのしく学ぶ社会福祉 誰もが人間らしく生きる社会をつくる』ミネルヴァ書房)	2021. 4
	論文(単著)	「医療機構のレジリエンス:COVID-19流行初期対応での課題」(日本医療福祉政策学会『医療福祉政策研究』4巻1号)1-11頁	2021. 4
	論文(単著)	「EU 離脱と英国医療—『合意』成立を受けて」(『医学のあゆみ』277巻3号)238-239頁	2021. 4
	論文(単著)	「ゲノム情報を用いた健康予測サービス:課題と政策的含意」(『保健医療社会学論集』32巻1号)3-13頁	2021. 7
	論文(単著)	「健康課題のグローバルな緊密化をふまえた共通理念:健康権と普遍医療給付」(非営利・協同総合研究所いのちとくらし『いのちとくらしいのちとくらし研究所報』77号)38-42頁	2022. 1
	論文(単著)	「刑務所医療改革—欧州での取組みからみた日本の課題」(『季刊 刑事弁護』109号)117-122頁	2022. 1
	論文(単著)	「保健・医療における『公的責任』を考える」(『大阪保険医雑誌』667号)4-9頁	2022. 3
	研究発表等 (単独)	「新型コロナウイルス感染症への公衆衛生上の対応—揺らぎをふまえた感染症対策へ」(地域社会学会第46回大会シンポジウム)	2021. 5
	研究発表等 (単独)	「欧州における新型コロナウイルス感染症の影響と対応—社会保護上の対応を中心に」(日本地域経済学会第33回大会共通論題)	2021.11

松田 亮三	研究発表等 (単独)	“Maintaining universal coverage in the era of widening inequalities: Challenges in the Japanese statutory health insurance” (The 2nd Forum on Welfar State and Social Policy)	2022. 3
三宮 利幸	研究発表等 (単独)	「第1 コメント」(マックス・ヴェーバーシンポジウム実行委員会『学知の危機とマックス・ヴェーバー——科学主義と反知性主義を超える』)	2021.12
	研究発表等 (単独)	第1 報告「『機械的化石化』をめぐる日本における『倫理』論文受容の問題」(『近代日独社会科学者たちの知的交流とその時代』——ヴェーバー没後百年、ラートゲン没後百年記念シンポジウム——)	2022. 1
宮尾 万理	論文(単著)	「高等教育で求められるクリティカルシンキングスキルの国際水準とは」(『日本教育工学会研究報告集』2021巻4号)140-143頁	2021.12
宮口 幸治	著書(その他)	『(BUNCH COMICS) ケーキの切れない非行少年たち 2巻』(新潮社)	2021. 4
	著書(単著)	『どうしても頑張れない人たち』(新潮社)	2021. 4
	著書(単著)	『ケーキの切れない非行少年たち』(新潮社)	2021. 5
	著書(単著)	『やさしいコグトレ 写す I (コグトレドリルシリーズ)』(三輪書店)	2021. 6
	著書(単著)	『やさしいコグトレ 写す II (コグトレドリルシリーズ)』(三輪書店)	2021. 6
	著書(単著)	『やさしいコグトレ 数える I (コグトレドリルシリーズ)』(三輪書店)	2021. 6
	著書(単著)	『やさしいコグトレ 数える II (コグトレドリルシリーズ)』(三輪書店)	2021. 6
	著書(単著)	『大人の認知機能強化! 脳が錆びないコグトレ・ノート』(講談社)	2021. 6
	著書(単著)	『全面启动大脳学習認知力 (台湾版)』(小熊出版)	2021. 6
	著書(単著)	『困っている子を見逃すな マンガでわかる境界知能とグレーゾーンの子どもたち 2』(扶桑社)	2021. 7
	著書(単著)	『医者が考案した記憶力をぐんぐん鍛えるパズル』(SB クリエイティブ)	2021. 7
	著書(監修)	『都道府県がスイスイわかる! るるぶ日本一周コグトレ・パズル』(JTB パブリッシング)	2021. 7
	著書(共編者 (共編著者))	『コグトレ実践集』(三輪書店)	2021. 7
	著書(その他)	『(BUNCH COMICS) ケーキの切れない非行少年たち 3巻』(新潮社)	2021. 9
	著書(単著)	『1日5分、マンガで楽しく 大人の脳強化ドリル コグトレ』(幻冬舎)	2021. 9
	著書(単著)	『やさしいコグトレ 想像する (コグトレドリルシリーズ)』(三輪書店)	2021.10
	著書(その他)	『(BUNCH COMICS) ケーキの切れない非行少年たち 4巻』(新潮社)	2022. 2
	著書(その他)	『子どもが心配 人として大事な三つの力』(養老孟司×宮口幸治・高橋孝雄・小泉英明・高橋和也, PHP 研究所)	2022. 2
	著書(単著)	『生きづらい子をあきらめない マンガでわかる境界知能とグレーゾーンの子どもたち 3』(扶桑社)	2022. 3
	著書(単著)	『マンガコグトレ入門: 子どもの認知能力をグングン伸ばす!』(小学館)	2022. 3
	著書(編者 (編著者))	『学びの土台を作るためのワークブック——学校では教えてくれない 困っている子どもを支える認知機能強化トレーニング』(明石書店)	2022. 3
	著書(単著)	『接住子供の求救訊號: 同理臨界智能孩童の生存難處 (台湾版)』(世茂)	2022. 3
	著書(単著)	『医者が考案したコグトレ・パズル なぞときアドベンチャー編』(SB クリエイティブ)	2022. 3
	論文(単著)	「頑張れない少年たち — 4 次障害をうむ社会—」(日本小児精神神経学会『小児の精神と神経』)	2021.10
	論文(共著)	「Rey の図を使った児童の視覚認知評価」(日本 COG-TR 学会)	2022. 3
	論文(共著)	「学校における COGET 導入の可能性」(日本 COG-TR 学会)	2022. 3

村田 観弥	研究発表等 (単独)	「『障害』を『解消する』教育から『楽しむ』教育への転換—パフォーマンス / エンターテインメントから学ぶ教育的意義—」(日本特殊教育学会第59回大会 (web 開催))	2021. 9
柳原 恵	著書(分担執筆)	Montserrat Crespín Perales (ed.) <i>Feminismo e identidades de género en Japón. Barcelona, España: Edicions Bellaterra</i> (担当章: Feminismo en el Japón de posguerra: una mirada al movimiento Ūman Ribu (Women's Lib) de los años sesenta y setenta.)	2021.10
	論文(単著)	「ミニコミの分析から見る戦後日本の「地方」における女性運動」(日本女性学習財団『ウィラーン』2021年8月号) 4-7 頁	2021. 8
	論文(単著)	「COVID-19パンデミックにおけるフェミニズム運動の視座と実践——南米チリを事例として」(国際ジェンダー学会『国際ジェンダー学会誌』第19号) 54-68頁	2021.12
	論文(単著)	「フェミニズム以前のフェミニストたち——1950-60年代岩手女子青年たちの生活記録誌を読む」(立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』33巻3号) 53-63頁	2022. 2
	研究発表等 (単独)	「コメント：人間関係のデモクラシー —— “家族” から思考する」(立命館大学教養教育センター「SERIES リベラルアーツ：自由に生きるための知性とはなにか 人間関係のデモクラシー —— “家族” から思考する—」)	2021. 6
	研究発表等 (単独)	「教養教育における ジェンダー教育の困難と必要性」(2021年度第3回立命館大学教養教育研究会社会的公正をめざす教育に関する研究「ジェンダーとダイバーシティ」)	2021. 9
	研究発表等 (単独)	「地域女性史における聞き書きとは何か——〈東北の農婦〉の語りを聞くこと／書くことの可能性」(産業社会学会第2回アドバンスセミナー)	2021.11
	研究発表等 (単独)	「東北農村における性暴力——「艶笑譚」と地域女性史の聞き書きから」(総合女性史学会地域女性史例会)	2022. 1
	その他(単独)	「変化する女性運動」(芦屋市男女共同参画センター『ウィザス』107号) 1 頁	2022. 3
	その他(単独)	「〈いわてリレーエッセイ 遊歩道〉災害と復興——ジェンダーの視点から」(『岩手日報』2022年2月26日)	2022. 3
	その他 (単独講演)	「女性の声をつなぐ」(パリテ・キャンペーン実行委員会「女性参政権記念75周年記念トークフェス：増やそう、女性議員！つなげよう、女性のチカラ！」)	2021. 4
	その他 (単独講演)	「附属校生の〈性〉意識を考えよう——性教育／ジェンダー教育のよりよい中高大連携をめざして」(2021年度附属校養護教諭研究会)	2021.11
	その他 (単独講演)	「フェミニズムと戦後日本の女性たち」(京都市男女共同参画センターウィングス京都「ジェンダー論基礎講座 フェミニズムってなんだろう？」)	2022. 2
	その他 (単独講演)	「性教育と性暴力」(2021年度立命館大学みらいゼミ勉強会)	2022. 3
吉田 誠	論文(単著)	「横浜船渠における1929年の合理的賃銀制度に関する一考察」(『立命館産業社会論集』57巻2号) 1-16頁	2021. 9
	研究発表等 (単独)	「横浜船渠の1929年の『合理的賃銀制度』について」(日本労働社会学会第33回大会)	2021.10